

新年のご挨拶

第一步を踏み出す年に



総本山金剛峯寺執行長
高野山真言宗事務総長

添田 隆昭

明けましておめでとうございます。
高野山教報読者の皆さまには、ご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨春の高野山開創大法会には祖山にお参り頂けたでしょうか。また秋にも金堂ご本尊さまを開扉して結縁の機会を持って頂きました。

あまりにも沢山の皆さまにご登山頂き、電車は橋本から立ちづめ、極楽橋では、先の電車の乗客がケーブルで運びきれず、プラットホームは人で溢れ、バスはピストン運転するも追いつかず、車で来れば花坂から数珠つなぎで大門まで二時間。やつと山内に入るも食堂も納経所も二時間待ち、宿坊も一杯で泊まる所もない。開扉された金堂ご本尊薬師如来さまをゆつくり拝む間もなく、奥之院参道も袖触れあわんばかりで、静寂からはほど遠い地下鉄乗り場のよう。対応する職員も苛立つて刺々しい。
こんな状態が毎日続き、さぞや皆さまからのお叱りがネット

上に溢れているものと心配しております。また、新聞や雑誌、テレビ等で面はゆいばかりに度々取り上げられましたが、これらも、一に金堂ご本尊さまと金剛峯寺持仏開弘法大師さまの威光の賜と、そのお力の偉大さに驚くばかりでございます。

混雑でひどい目に遭ったけれど、あれだけ多くの方がお大師さまを信仰し、高野山に興味を持って下さっているのかを知って、何だか安心もし、嬉しくなってきたというのが、読者の皆さまの感慨ではないでしょうか。

ただ、この大成功も、長く大師信仰に生きてこられた信者の皆さまと、営々と準備を積み重ねて下された諸先輩のお力添えの賜であり、今年は、来たるべき次の「ご誕生」「入定御遠忌」大法会に向けて、私共がその責務を果たすべき第一步を踏み出す年でもあります。

皆さま方のご多幸をご祈念し、宗団並びに本山への更なるご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

伝言板

何もかも失われたときにも、

未来だけはまだ残っている。

二月の行事

二月三日 節分会

立春の前日は、冬の季節から春の季節への変わり目と言うことで節分と言いますが、新春を迎えるにあたって除災招福をする行事です。真言宗では、星祭り、星供養会ともいいます。

二月十五日 涅槃会

釈尊が入滅された日で、お寺では涅槃図を掲げ、報恩法要が営まれます。八十歳になられた釈尊は、クシナガラの下で、右脇を下に頭を北に向けて横臥し、涅槃に入られました。常楽会ともいいます。

迷惑「メイク」

「他人に迷惑をかけないようにしましょう」とか「多大な迷惑を被った」などといわれるこの迷惑は、現代では不利益とか不都合という意味に使われるようである。しかし、迷は本当の道にまようことを意味し、惑は途方にくれてとまどうことを意味する。両方の字が示すように、この言葉も本来は迷いとまどうことを意味する仏教語である。

仏教が生んだ日本語

空海の言葉 シリーズ

しょうもんえんがく

声聞縁覚は、

智慧狭劣なり「秘蔵宝鑑」

●●● 説法を聞いて悟りを開いたとしても、座禅瞑想して悟りを開いたとしても、そういう智慧は、まだまだ浅いものだ

心の迷いを取り除いて悟りを開きたいとは、誰もが考えることです。

昔から悟りを開くのに、二つの方法があります。「声聞」と「縁覚」です。文字通り、仏の言葉を聞いて悟る者と、因縁を観察し、生死の世界を厭い、飛花落葉を見て、世の無常を覚る(悟る)。山林に住して無言の三昧を修し、これによって悪業や煩惱の根本である無明から脱する。

迷いと悟りの世界を十種に分けたもの、すなわち、地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上、(輪廻転生の世界、「六道輪廻」) 声聞、縁覚、菩薩、仏、(聖者の悟りの世界) この中の声聞・縁覚は、修行中ということができる。

